

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	通信会社（営業担当）	・ボーナス商戦、クリスマスイベントで景気が良くなるのに加え、新商品の発売により、先行きは、少し上向きになる。
	変わらない	商店街（代表者）	・歳末商戦を迎えているが、消費者の購買意欲が湧いていないような感じを受ける。
		百貨店（売場主任）	・良い動きは、一過性であると感じる。客の消費意識は冷え込んでおり、必要ないものは買わない傾向がある。先行きの客の動向に変化はないと感じる。
		スーパー（営業担当）	・営業時間延長の効果は、月を追う毎に平均化されており、来客数、売上の拡大が見込めない。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数、単価、カテゴリー別売上に特徴的な動きはない。単価は若干上昇しているが単発的であると思っている。
		コンビニ（店長）	・先行きも今月と変わらず、向上する兆候が見えない。
		衣料品専門店（店長）	・客の消費意識に変化がなく、高額商品の販売につながらない。
		家電量販店（店長）	・来客数は、横ばいで推移している。今後は、商品単価の変化により来客数が左右されると思われる。
		乗用車販売店（営業担当）	・10月に新商品が発売されたが、期待したほど販売量は増加しなかった。12月にも新商品が発売されるが、販売量に変化はないと考えている。
		観光型旅館（経営者）	・予約状況を見ると、あまり変化がない。現在の景気は、旅行にお金を使う状況ではない。
		旅行代理店（従業員）	・団体旅行は減少しているが、個人旅行は調子が良く、今後、卒業旅行や春休みの旅行などの需要が見込める。
		タクシー運転手	・年末から年明けに向けて多少の変化はあると思うが、客の動向から絶対数が伸びると思わない。
		通信会社（総務担当）	・企業業績の悪化と雇用調整の継続から、個人消費の上昇や景気が回復する状況は、当面ないとみている。
		観光名所（経営者）	・来客数は微増しているが、単価は下落している。今後もこの状態は続くものと思われる。
	ゴルフ場（従業員）	・現在の状況と予約状況を見ると、先行きもあまり変化はない。	
	設計事務所（職員）	・数か月間の受注量に変化がない。	
	やや悪くなる	一般小売店〔菓子〕（販売担当）	・地元および県外の来客数ともに前年を大きく下回っており、回復の兆しが無い。
		百貨店（営業担当）	・ここ数か月間の傾向として、大口売上の件数は、前年と比べ減少している。ヤングファッション関連の衣料・雑貨においてボーナス支給前の下見客が減少している。歳暮前商戦でも、1人当たり、一件当たりの依頼件数が減少している。中旬まで来客数、売上とも対前年比微増で推移していたが、それ以降は急激に低下している。
		スーパー（店長）	・今年は例年より早く寒くなり、通常11月に売れる商品の売れ行きが悪い。販売が低迷している上、生鮮食品やグロサリー商品の原価が値上がりし、利益がでない状況が続いている。
スーパー（企画担当）		・客の動向は、生活に対する厳しさから割安感、お買い得感がある商品を選んでいる。	
コンビニ（店長）		・来客数、売上ともに減少している。タバコは変化がないが、酒類など、お父さんの小遣いの商品が減少しており、先行きに期待ができない。	
衣料品専門店（経営者）		・高級品の購入に対する客の動向は慎重で、また一品以上の購入はしない。更にセール期間まで購入を控えていることから、今まで以上に悪化すると予想している。	
都市型ホテル（経営者）		・予約状況から見て、大きく好転することはない。単価は、宿泊費、飲食費ともに減少している。	
タクシー運転手		・通常、寒いとタクシーの利用は増加するが、バスの新しい路線が運行されており期待ができない。忘年会などで年末は増加するだろうが、ある程度夜の利用客が見込めないタクシー業界は厳しく、それも期待できず悪化の方向であると感じている。	
悪くなる	一般小売店〔乾物〕（店員）	・歳暮商戦はスタートが鈍く、注文が例年になく少ない。景気の先行き不安に対する消費者の贈答品に対する考え方が変化している。	

		衣料品専門店（経営者） 通信会社（企画担当）	・大手百貨店撤退後、エリア競争で中心街の弱体化が進み、集客が減少する。 ・景気の先行きが不透明で、客の財布のひもが固くなっており、電話機能、新機能への買い換えや機種変更は減少している。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	電気機械器具製造業（経営者） 広告代理店（経営者）	・年度末に向かったの設備工事の受注を確保している。 ・取引先に同業者の進出を阻止するための新店オープンや新店舗の計画があり、明るい材料が見込める。
	変わらない	建設業（総務担当）	・明るい材料が無く、低水準のままの状態が当面続く。
		通信業（支店長）	・景気が良くなる兆しが見られず、元気がある企業が出てこない。
		不動産業（経営者）	・現在の取引状況が好転するようには思えない。先行きが見えてこない。
	やや悪くなる	繊維工業（経営者）	・市況は小売段階が厳しい状況で、特に、タオル業界の輸入は減少しておらず、価格はデフレ基調で一層厳しくなっている。
一般機械器具製造業（経理担当）		・首都圏のクレーン稼働率は、上昇傾向で、チャーター料金は低下傾向が続いている。一方、地方は、クレーン稼働率も悪く深刻な状況にある。	
輸送業（支店長）		・現状は前年を下回っており、年末にかけて、一時的な増加はあるが、荷主からの明るい話題もない。	
金融業（融資担当）		・主要産業である土木・建設業の工事受注量が減少しており、今後も公共工事の減少が見込まれるため、さらに減収が続くと思われる。	
広告代理店（経営者）		・雇用形態の変化が表れており、臨時雇用の求人広告だけになっている。	
悪くなる	建設業（経営者）	・不良債権処理による中堅ゼネコンの淘汰があると予想している。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・ブレン採用のためのコストを費やす企業が増加している。
	変わらない	職業安定所（職員）	・新規求職者は3年間続けて対前年同月比で増加傾向が続いており、今後、改善される要素が見当たらない。
		職業安定所（職員）	・建設業からの求人は減少傾向にあり、製造業からの求人は回復の兆しが見えない。雇用保険終了後、再就職している一般求職者が大幅に増加する傾向が続いている。
	やや悪くなる	人材派遣会社（支店長）	・派遣社員を利用している企業は、単価の安いパートやアルバイトへの切り替え、数社から見積もりをとって派遣料金の安いところを利用するケースや、派遣社員を継続して雇用する場合も値下げの要求が増加するなど人件費を抑えようという企業が増加している。
		職業安定所（職員）	・パートを含む有効求人倍率は0.53倍と、対前月比で0.03ポイント減少した。パートを除く常用の有効求人倍率でも0.39倍と、対前月比で0.02ポイント減少しており、雇用環境の悪化が伺える。
悪くなる			